

ニッセイ緑の財団の取組み紹介

2013. 1. 12

せんだいメディアテーク

ニッセイの財団を通じたCSR取組み

日本生命済生会

1924. 7. 1設立

日本生命の社是である共存共栄、相互扶助の精神を實踐するため「済生利民」を基本理念と定めて、大阪の地に設立

ニッセイ文化振興財団

1973. 11. 1設立

日生劇場を中心として『すぐれた舞台芸術を提供するとともにその向上をはかり、わが国の芸術文化の振興に寄与

日生財団

1979. 7. 4設立

日本生命の創業90周年を記念

ニッセイ聖隷健康福祉財団

1989. 7. 4設立

日本生命の創業100周年と聖隷福祉事業団の創業60周年を記念

ニッセイ緑の財団

1993. 7. 4設立

アリスのコンサートの様子(宮城県大船渡市)



人形劇団ひとみ座の人形劇の様子(宮城県亘理町)



ニッセイ文化振興財団

1973. 11. 1 設立

※活動の動画はリンク先よりご覧ください。

日生財団

1979. 7. 4設立

1. 児童の健全育成活動への助成
2. 研究助成や先進的事業助成

児童の健全育成を目的にした助成

	H23 助成団体数	H23 助成額	H24 助成団体数	H24 助成額
岩手県	5	203 万円	4	171 万円
宮城県	4	200	5	260
福島県	2	92	6	309

届け、太鼓の響き。“いわきは元気”を伝えたい!

[黒潮流みつもり太鼓:福島県いわき市大久町]

6月、「ふくしま太鼓フェスティバル」に市の代表として出演しました。披露するのは結成当時から演奏する組曲「波と漁師の宴」。地域の山を源流に海へ注ぐ水の流れと海に生きる漁師の姿を表現したもの。風評被害に苦しむ地元が負けられないように思いを込めて太鼓を響かせました。メンバーの多くの子は、原発事故の影響で約30km離れた小学校を間借りして勉強しています。練習場だった体育館は、もちろん使えず、県外転校する子もあり、メンバーは減少。本格的な練習再開は昨年11月からでした。それでも、この夏は東北地区の復興祭への参加、地元イベントでの演奏など復旧復興のイベントには積極的に参加。市内の高齢者・福祉施設へも定期的に訪問。「太鼓で元気を!!」と元気な姿を発信しています。



環境問題や高齢社会に関する 研究助成や先進的事業助成

1. 平成 24年度学際的総合研究助成テーマ

「震災復興と第一次産業再生・震災復興と地域再生」

1、被災地域コミュニティの復興と再生

—自治体・NGOとの協働によるボトムアップ型政策提言—

東北大学大学院文学研究科・教授 長谷川 公一(600万円 × 2年)

2、生業の創出を核とした地域社会の回復力を形成する

—宮城県石巻市北上町(橋浦地区ならびに十三浜地区)の被災経験から—

法政大学人間環境学部・准教授 西城戸 誠(500万円 × 2年)

1. 平成 24年度先駆的事業助成

住民主体の傾聴・見守りのしくみづくり

—大槌町仮設団地での福祉コミュニティ形成事業

NPO法人 鷹ロコ・ネットワーク大楽(112万円)

ニッセイ仙台支社の取組み



被災地応援 宮城県物産展

平成23年7月27・28日開催



短冊や、ポケモン塗り絵に
取り組むお子さん



大通り沿い
大型モニター



昼と夕方を中心に大盛況。
社内・社外半々のイメージ。



ニッセイ緑の財団

1、全国での森づくり

2、森を活用した森を愛する人づくり

森林ボランティア活動、森林環境教育等

3、被災地域で実施する復興支援事業

ボランティア活動の映像

※動画はリンク先よりご覧ください。

財団の目指す森づくり

全国に広がる森づくり(1)



全国に広がる森づくり(2)



80年後に立派な森になるか

成林 可能性ランク	基本的な考え方	箇所数
A	成林可能な森	155
B	経過観察が必要な森(ギャップがある、獣害リスクが高い)	27
B1	当面注視する森 (更新作業の要否、ネット設置効果確認、改植直後)	(14)
B2	通常の施業に加え、更新補助作業等を必要とする森	(3)
C	改(補)植等の対応が必要な森	5
合計		187

自然の洗礼(1)



自然の洗礼(2)



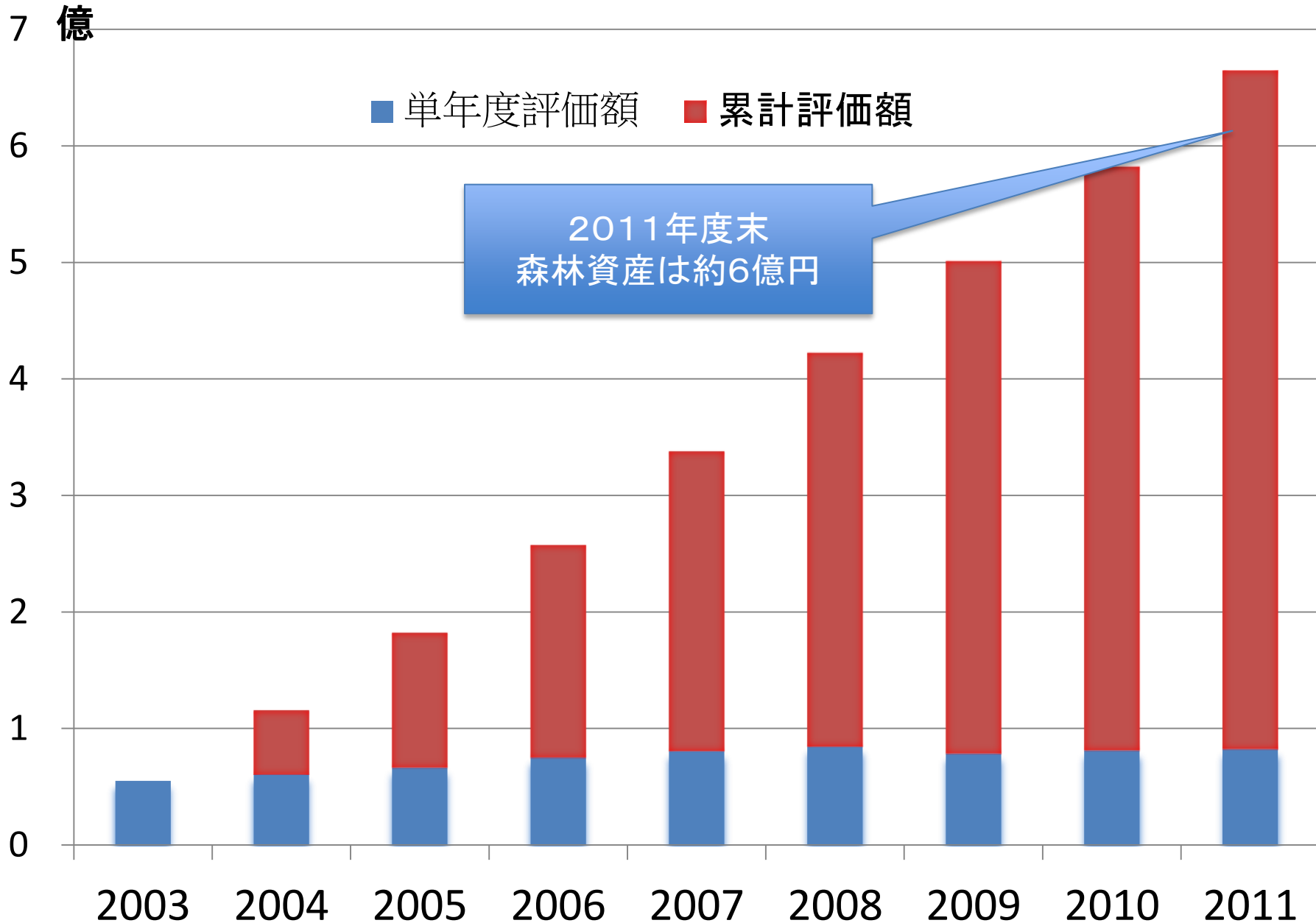
自然の洗礼(3)



自然の洗礼(4)



投下資産(=森林資産)と公益的機能



財団の目指す森づくり(1)



「ニッセイ100万本の植樹運動」
ニッセイ湯布院の森
「私たちは精神活動を共にして
一人一人の心に森を植える事で心と体
自然環境との共生を促す事で
社会にニッセイの森づくりを創っています。」
「ニッセイの森」実行委員会(日本生命株式会社)
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 日本生命ビルディング
電話 03-3253-1111 FAX 03-3253-1112
Eメール nissei@nissei.or.jp
ホームページ nissei.or.jp

財団の目指す森づくり(2)



財団の目指す森づくり(3)



財団の目指す森づくり(4)

気仙沼の森(1)

財団の目指す森づくり

- ① 多種多様な樹種を植栽するとともに、自然力の積極的活用
 - 1) 適地適木を基本に広葉樹(42樹種)、針葉樹14樹種
 - 2) 広葉樹は植栽本数の約4割
 - 3) 自然発生する高木性有用木
- ② 長伐期施業の実施(80年間の契約を採用し、更新も可能)
- ③ 積極的な間伐による下層植生の豊かな林床育成(針葉樹林)

森林ボランティア以外の
森を愛する人づくり

ドングリ学校(1)



ドンケリ学校(2)



ドングリ学校(3)



ドングリ学校(4)



ドングリ学校(5)



ニッセイ緑の環境講座(1)



熊崎実

ニッセイ緑の環境講座(2)



ニッセイ緑の環境講座(3)



鳥取でのシンポジウム(1)



被災地域で実施する

復興支援事業

被災地での森づくり

【岩手県】 4箇所 13.1ha
 【宮城県】 4箇所 11.7ha
 【福島県】 5箇所 16.3ha
 ≪3県合計≫ 13箇所 41.2ha

ニッセイ平泉の森

H23対応: 掃除伐

ニッセイ栗駒の森

H23対応: 林相調査

ニッセイ利府の森

H23対応: 下刈(ボランティア)・森林教室

H24計画: 下刈・森林教室(2回)

ニッセイ川崎の森

H23対応: 下刈

H24計画: 下刈

ニッセイ金山の森

H23対応: 枝打ち

ニッセイ塙の森

H23対応: 除伐

H24計画: 林相調査

ニッセイ紫波の森

H23対応: 状況ヒアリング

H24計画: 財団視察

ニッセイ遠野の森

H23対応: 施業要否確認

H24計画: 施業要否確認

ニッセイ大船渡の森

H23対応: 財団視察

H24計画: 間伐(ボランティア)

ニッセイ気仙沼の森

H23対応: 財団視察

ニッセイ飯館の森

対応不可

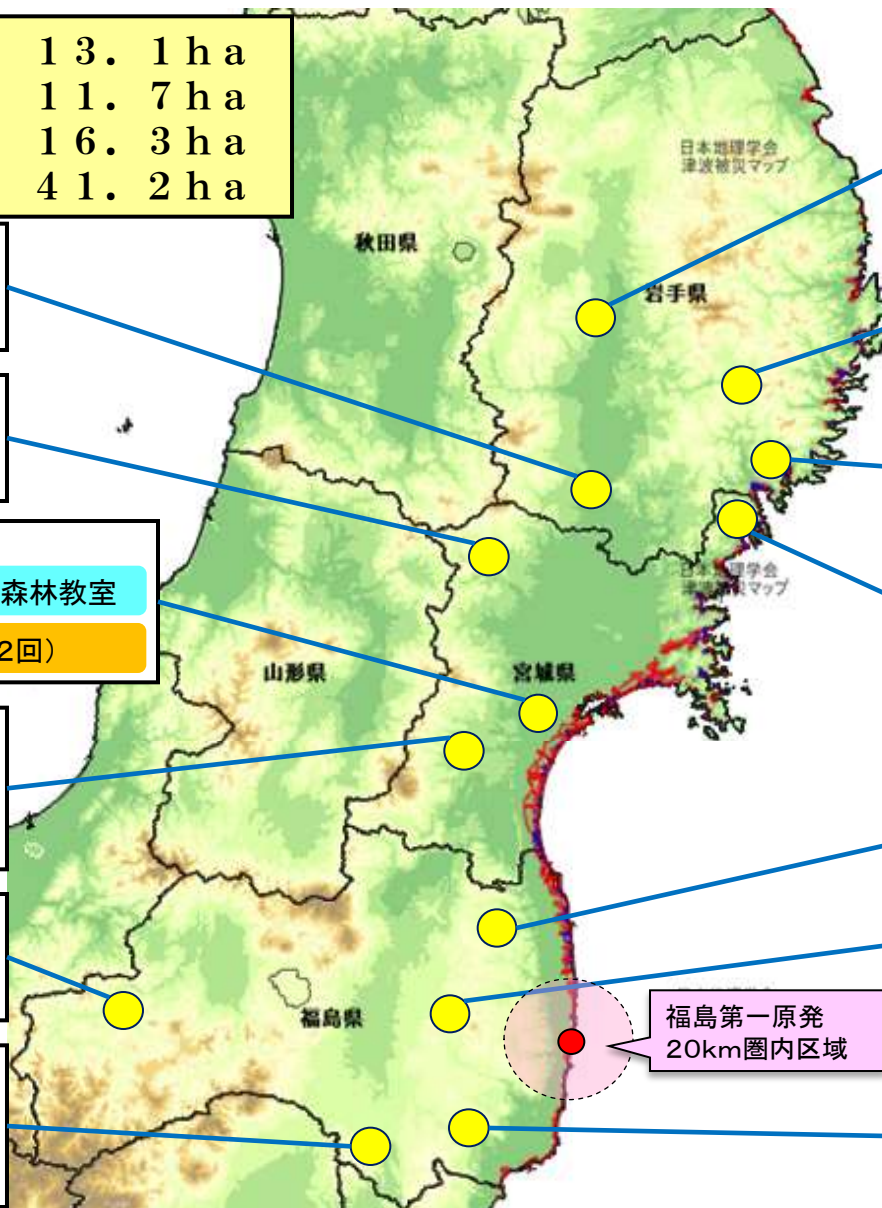
ニッセイ船引の森

H23対応: 下刈

H24計画: 下刈

ニッセイいわきの森

H23対応: 状況ヒアリング



福島第一原発
20km圏内区域

H23は避難地域となっている飯館の森以外の全12箇所で対応実施(視察・ヒアリング含む)
 →H24も利府・大船渡でボランティアを実施し、被災地での活動を継続実施していく

飯館の森(1)



飯館の森(2)



気仙沼の森(1)



気仙沼の森(2)



大船渡の森でのボランティア活動(1)



大船渡の森でのボランティア活動(2)



岩沼市での囲久根再生支援(1)

玉浦西地区まちづくり検討委員会



岩沼市での囲久根再生支援(2)



岩沼市での囲久根再生支援(3)



岩沼市での困久根再生支援(4)



利府の森“森林教室”（1）



利府の森“森林教室”(2)



利府の森“森林教室”（3）



利府の森“森林教室”(4)



利府の森“森林教室”(5)



利府の森“森林教室”(6)



地球の楽好 絵本バス



日本の森バイオマスネットワーク(1)



日本の森バイオマスネットワーク(2)



日本の森バイオマスネットワーク(3)



松陵西小学校学校林(1)



松陵西小学校学校林(2)



NPO法人宮城県森林インストラクター協会

木村企画部長



1) 行政・企業等との協働による森づくりを柱に、さまざまな自然体験・環境教育事業を展開。

2) その活動の中から見えてきた、防災・減災機能を備えた学校林—環境教育防災林の整備。

3) ニッセイ緑の財団との協働により、さまざまな森林活動を通じて「心の復興」に取り組む。

石巻市立橋浦小学校

小山校長先生



震災の経験から学校林の防災／減災機能に着目し、学校教育での活用に加え、地域住民を巻き込んだ防災教育の場、薪の備蓄等地域の防災拠点としての活用に取り組む。

一般社団法人地球の楽好

千葉代表理事



子どもたちの健全育成と子育て支援を目的として活動

1) 子育て情報誌の企画・制作を通じ子育て中の親同士・地域間のコミュニティの形成に寄与。

2) 日本の伝統文化の継承とともに、世代・地域・時代を繋ぐワークショップを展開。

3) 震災支援として世界中から届けられた絵本を「えほんバス」で被災地を回り被災者のPTSD対応を継続するとともに、各団体と連携し被災地の子どもたちを森林教室に招く。

NPO法人日本の森バイオマスネットワーク

佐々木理事長



1) 木質バイオマス燃料の普及・啓発。

2) 地域産の木材を使用した健康・安全な家づくりの推進。

3) 「手のひらに太陽の家」プロジェクトで福島の子どもたちへ遊び場を提供。

4) 再生可能資源を利用した

持続可能な社会の構築への啓発事業。

5) 森づくりの人材育成。